



【韓国】 総合指数は週間で0.5%安と続落、節目の2500ポイント付近で上値重い

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.5%安と続落。週初の4日に反発して節目の2500ポイントを上回って始まったものの、その後は7日に2カ月ぶりの安値を付けるなど売り圧力が強まり、結局、この水準を下回って終えた。前週に大きく下落した後とあって、前半はハイテク株などの買い戻しが進んだ。ただ、6-7日は米株安や中東情勢の悪化懸念に加え、政府系シンクタンクが2018年の経済成長率が鈍化するとの予測を発表したことなどが嫌気されて主力株を中心に下落。8日は一部の銘柄に買い戻しが入ったが、造船株の大幅安などで上値は重かった。今週は安値拾いの買いが入りやすい状況下で再び2500ポイントを目指すか。一方、週央の米FOMCやECB定例理事会といった海外イベントを前に様子見ムードも広がりやすい。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.2%安と続落、今週も継続的に弱含む展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で1.2%安と続落。週明けから1113.04ドルまで下げて結果的に週間安値となる水準まで値を崩したが、その後は買い戻され、週央までは前週末の終値付近を上限としたレンジ取引となった。週初から週半ばにかけてブレント原油価格が63ドル前半から61ドル前半まで売り込まれた上、ルーブル高の進行で輸出企業株に売り圧力が高まり、上値は重かった。週後半は、中国の石油需要拡大やナイジェリアの産油施設でのストライキ発生などを背景にブレント原油価格が63ドル前半まで値を戻したが、RTS 指数は投資会社システムの急落などをきっかけに再び下落基調に転じた。8日は一時、前日比0.4%安の1114.91ドルまで下落し、横ばいの1119.54ドルで取引を終了した。今週も引き続き弱含む展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.1%安と10週ぶりに反落、押し目は買いで対処か

処か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.1%安と10週ぶりに反落。前週までの流れを引き継ぎ、週序盤は堅調に推移したが、その後は手掛かり材料難から売り優勢となった。週明けからプラス圏を維持し、5日には974.80ポイントまで上昇して10年ぶり高値を前週に続き更新。しかし、その後7日までは970ポイント超えの達成感と手掛かり材料不足で、利益確定売りに押された。8日は前場に930.29ポイントまで下落したところで底入れし、前日比0.2%高の940.16ポイントで週の取引を終了した。個別ではビナカフェ・ビエンホアが週間で26.8%高と指数を支えたものの、ファロス建設が14.2%安、前週に指数を支えたサイゴンビールが6.4%安、時価総額の大きいビナミルクが4.0%安と売られた。押し目があれば、今週は買いで対処か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.3%高、物価上昇圧力の低下を好感

ジャカルタ総合指数は週間で 1.3%高と反発。前週の反動でおおむね堅調に推移した。週初の 4 日は 11 月の CPI 上昇率が前年同月比 3.3%と 11 カ月ぶりの低い伸びとなり、物価上昇圧力が弱まったことが好感されて、指数は 3 営業日ぶりに反発。5 日には金融株と一般消費財株が買われて終値で 6000 ポイントを回復した。8 日はフィッチ・レーティングスが前日に来年のインドネシア経済について、投資環境の改善と商品価格の安定に支えられ急速に上向くとの見通しを示したことを受けて買われた。今週は 14 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、15 日には 11 月の貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%安、今週は 12 日に 10 月の小売売上高発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%安と 3 週ぶりに反落。週末の反発が下落幅を縮めた。5 日は前日の取引終了後に発表された 11 月の製造業 PMI が 52.9 と前月の 52.6 を上回り、09 年 12 月以来の最高値を更新したものの買い材料にならず、指数は前日から横ばい。6 日は前日の NY ダウが反落した影響で金融株が売られて前日比 1.2%安と終値で約 2 週間ぶりに 3400 ポイントを割り込むと、結局 7 日まで 4 日続落となった。8 日は反動で金融株を中心に買われて前日比 1.1%高。3400 ポイントを回復して引けた。今週は 12 日に 10 月の小売売上高が発表される予定で、前年同月比で増加に転じるかが焦点になる。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%高、今週も外部要因に左右される展開か

SET 指数は 4 日間の取引で 0.4%高と続伸。週後半の上昇が奏功した。前半は買い材料に乏しく軟調な値動きだったが、7 日に 3 営業日ぶりに反発すると、8 日は中国の 11 月の輸出が市場予想から上振れしたことに加え、日本の 7-9 月期の GDP 改定値が速報値から上方修正されたことも好感されて続伸。前日の NY ダウの反発も追い風だった。今週も経済指標の発表が少ない中、前週末に発表された 11 月の米雇用統計で非農業部門の雇用者増加数が市場予想を上回り、ダウが過去最高値を更新したことは好材料。中国で 14 日に発表される小売売上高などの指標も注目される。11 日は憲法記念日の振替休日で休場。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%高、今週は 10 月の鉱工業生産と小売売上高発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.2%高と続伸。週初こそ振るわなかったが、その後はおおむね堅調だった。4 日は証券取引所が実施した定例の指数構成銘柄の見直しを受けて、機関投資家のポートフォリオ調整に伴う売りが集中した影響で続落。5 日は反動で 3 営業日ぶりに反発したものの、6 日は 10 月の輸出額が市場予想を上回ったことが買い材料にならず、金融株の一角が指数下落をけん引した。週後半は外国人投資家による買い戻しや中国の輸出拡大を受けて続伸。今週は 12 日に 10 月の鉱工業生産、13 日に小売売上高が発表される予定で、内容が市場予想から上振れすれば株式相場の追い風になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。